

どさんこアウトメディアプロジェクト サポーターズセミナー

開催レポート

平成 26 年 12 月、北海道子どもの生活習慣づくり実行委員会が「どさんこアウトメディアプロジェクト」をスタートしてから一年。これまで、道内各地で保護者や児童生徒等を対象としたフォーラムを開催するなどして普及啓発を進め、地域や学校・家庭の取組が少しずつ広がっています。

平成 28 年 2 月 9 日（火）には、プロジェクトのさらなる普及を目的に、各地域で教育活動に携わる指導者や支援者等が一堂に会し、札幌市において「サポーターズセミナー」を開催しました。

当日は、全道各地から、学校や教育委員会の職員をはじめ、子どもの放課後を支える地域の指導者や家庭教育支援関係者、企業や団体など、様々な立場の参加者 215 名が集まり、現代のネット社会における子どもたちの現状や課題を共有し、地域の大人に求められる役割や取組の方向性について考えました。

テーマ ～これからの地域の教育力！
「支援」から「連携・協働」へ～



**ますます広げていきます！
「どさんこアウトメディアプロジェクト」**

主催者挨拶：実行委員会
佐藤 彰会長（北海道
PTA 連合会会長）



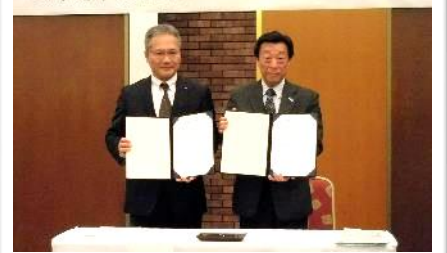
本実行委員会では、子どもたちの「ネット利用も含めた望ましい生活習慣の定着」に向けて、「ノーゲームデー」の推奨や、家庭におけるルールづくりの促進など、学校や地域の実情に応じた実践を呼びかけ、全道的なムーブメントが創出されるよう努めています。

今後、こうした取組を一層広げていくためには、地域に根ざした企業等とも連携し、企業等の持つ様々なノウハウも取り入れながらプロジェクトを展開することが必要と考え、道教委が推進する「家庭教育サポート企業等制度」の取組内容にプロジェクトの普及を盛り込んでいただきました。

このような中、『株式会社北洋銀行』様には、プロジェクトにご賛同いただき、道内全店（171 店舗）で取組を進めていただくこととなり、本セミナーの開会式において、「北海道家庭教育サポート企業等制度」協定締結式を実施していただきました。

本協定締結で、サポート企業等数は 2,000 を超え、学校・家庭・地域、そして企業等が一体となった教育活動の一層の充実が図られるとともに、「どさんこアウトメディアプロジェクト」がさらに全道各地へと広がっていくことが期待されます。

「北海道家庭教育サポート企業等制度」協定



左：道教委 柴田達夫教育長 右：北洋銀行 柴田龍取取締役副頭取



全体司会：実行委員会 川端美樹副会長
（札幌市 PTA 協議会会長）

講演：兵庫県立大学准教授 竹内和雄氏



午前には、子どものネット利用に関わる講演、午後には、地方創生を目指すためのポイントに関わる講義・演習が行われました。



講義・演習：文部科学省コミュニティ・スクール推進員（北海道大学学務部長）
出口寿久氏



様々な立場の参加者が課題を共有し、意見を交流しました。

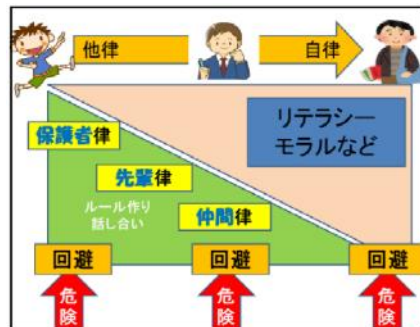


講演

「スマホ時代の大人が知っておきたいこと」 講師：竹内和雄氏（兵庫県立大学准教授）

現在、子どもたちに起きている様々な課題について具体的な事例から理解を深め、子どもたちを守り育てる大人として何をしなければならないかについて講演いただきました。

- 「デジタルネイティブ」世代が保護者となり、「デジタルネイティブ2世」が小学生となった現在、スマホを通じた様々なトラブルが起きている。しかし、これまでの「規制」という対策では解決が難しく、取組の方向性について大きく舵を切らねばならない過渡期である。
- スマホの問題は、子どもたちの「心の問題」である。子どもを守るために「教育」として何をすべきか。
 - ・ネット社会の光と影について、事実をしっかりと教えること
 - ・子ども自身が当事者として議論し、解決策を考え実行する機会をつくること
 - ・大人が「自分は知らないけど、知っている人を知っているよ、力になるよ。」という、頼られる存在であること
- 発達の段階に応じて、他人が決める「他律」から、自分で考える「自律」へと促すことが大切である。校種間の連携により、「仲間律」や「先輩律」を活用して取り組むことが有効。
- 日本の子どもは私たちが守れない。
北海道の「ノーゲームデー」の取組もその1つであり、北海道全体の取組として広がることを期待している。



講義

「これからの学校と地域の連携・協働の姿」 講師：出口寿久氏（文部科学省コミュニティ・スクール推進員）

地域ぐるみで子どもたちを守り育てていくため、「コミュニティ・スクール」を切り口とした地方創生の仕組みづくりや、これからの学校と地域の連携・協働のあり方について講義いただきました。

- 人口減少社会における地方創生に向けては、行政依存から脱却し、自ら解決のために行動することが求められる。
 - ・少子高齢化、子育て環境の変化などの「地域課題」の解決について、住民自らが学び、行動主体となる仕組みをつくることが重要。
- 地域課題の解決に向けては、「地域」という縦糸と「テーマ」という横糸を編み込む人材と仕掛けが必要。
- 「学校を核とした地方創生」の取組としては「コミュニティ・スクール」が効果的
 - ・地域がよくならなければ、学校もよならない。
 - ・学校・地域・家庭が「目指す子ども像」を共有し、責任をもって学校の教育活動に関わることが重要。

地方創生への参画プロセス案

- ・危機感の共有
- ・目指す子供像の共有
- ・熟議による課題の明確化
- ・課題解決のための役割分担
- ・計画実現のための情報収集
- ・活動状況の相互確認による認識の共有
- ・知の循環による活動の更なるステップアップ

演習

「サポーターズカフェ」 ～今こそ地域の大人がつながり、行動するとき～

ネット社会に着目した講演を踏まえ、地域ぐるみで子どもを育てるために、今後の地域活動の方向性について、アイデアを出し合いました。

- グループでの話し合い
 - ・「学校・家庭・地域がつながるためには、現状を変えるエネルギーが必要。」
 - ・「学校支援コーディネーターが学校に入ることによって、地域と学校がつながり様々な人材に子どもたちを守っていただく仕組みができる。」
 - ・「人が集まることによって、たくさんアイデアがでる。」
 - ・「地域の方、保護者、学校など、様々な方が集まる仕組みをつくる。」
 - ・「解決の方法は各地域で異なってもよい。」
 - ・「子どもにとって、自分を見守ってくれる人がいることがとても大事。」
 - ・「子育てをスマホに頼ってしまう親もあり、気軽に会話、相談できる環境づくりが必要。」などの意見が出されました。

- 協議のまとめとして、講師からの助言
 - ・学校・家庭・地域が連携するためには、対等な関係であることが重要！
 - ・学校は、地域や家庭と協働機能を有する関係をもつことが重要！

子どもたちの成長した姿を見るのは、そこで生活する地域住民であり、地域の大人たちは、子どもたちの未来のために責任をもって発言し、行動することが大切です。我が町だからこそ引き出せる、子どもの笑顔を大切にしましょう！

みんながサポーター！ 広げようプロジェクト！

★実行委員会では、プロジェクトに賛同していただくサポーターの輪が全道に広がるよう、イメージマークや名刺テンプレートなど、教育活動の現場で活用いただける普及啓発アイテムを作成し、ホームページで提供しています。ぜひご活用ください。



【発行】 北海道子どもの生活習慣づくり実行委員会
北海道PTA連合会、北海道高等学校PTA連合会、北海道特別支援教育関係PTA連絡協議会、札幌市PTA協議会、北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、北海道特別支援学校長会、北海道町村教育委員会連合会、どさんこ食育推進協議会、(一社)北海道子ども会育成連合会、(公財)北海道青少年育成協会、読み聞かせボランティアネットワーク「おはなしそらぶちべっ25」、北海道青少年教育施設協議会、雪印メグミルク株式会社北海道本部、NPO法人お助けネット、株式会社ドコモCS北海道、北海道新聞社、北海道、北海道警察本部、北海道教育委員会

【問合せ・資料のダウンロード】
北海道子どもの生活習慣づくり実行委員会事務局
北海道教育庁 生涯学習推進局 生涯学習課
〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目
TEL 011-204-5744 FAX 011-232-2236
URL <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/sgg/dosankootmedia/top.htm>

